

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年6月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1171000217
法人名	英和株式会社
事業所名	グループホームぽっかぽか
所在地	〒340-0801 埼玉県八潮市大字八篠50番地 (電話) 048-933-2111

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年5月29日

【情報提供票より】(平成19年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月16日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 21人, 非常勤 1人, 常勤換算	21.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	26,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (500,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり1,500円				

(4) 利用者の概要(平成20年6月1日現在)

利用者人数	26 名	男性	4 名	女性	22 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	12 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	65 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八潮中央病院、広瀬病院、伊澤歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、一目でわかる赤い屋根のモダンな2階建てで、静かな環境の中にある。デイサービスを併設し、3ユニットが相互に協力し合って「のんびり・ゆったり・自由に生き生き」という理念を掲げ、利用者は家庭的な雰囲気の中で生活している。ホームは地域の自治会に加入して地区の行事に参加させてもらったり、ホームのイベントには地区の住民を招待して、共に食事をしつつ一日を楽しんだり良い関係を築いている。管理者と職員が利用者のサービス向上に前向きに取り組んでいる様子が、日々のスナップ写真からも伺えるところである。また、このホームにはおしゃれ室があり、理美容室として使用されている。共有空間もスペースが広く、和室には大きな掘りゴタツがあり、障子を入れて落ち着ける部屋になっている。利用者が妻の月命日の墓参りに出かける姿にも接し、利用者の要望を臨機応変に対応している理念が活かされたホームである。

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価による改善課題について、評価内容を振り返り、結果の報告書を学びのテキストとして全職員で共通理解のもと改善に取り組んでいる。また、指摘された介護計画書については整備され努力のあとが伺われる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義を踏まえ、改善・工夫すべき所を、職員全員で共有し、研修の機会を設けて前向きに質の向上へと取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>計画されている2か月に1回の運営推進会議は実施できなかった。推進委員の組織はできている。今回の運営推進会議の議事録を見るに災害訓練の実施について話し合っており、議事録も細かく記録に残し、災害訓練の様子もスナップ写真に残されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱を設置しているが殆んど使われていない。家族は、毎月の職員の手作りによる新聞の発行と一筆だよりで利用者の様子が知らされている。毎月の支払いに来所した家族と連絡が密にとれている故に殆んど苦情や意見はないが、それを受けた場合は職員会議で話し合い、反映していくようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の人達はホームのイベントへ参加し、ホーム側も地域の行事に参加しているので交流の場が多い。互いに理解が深まり、地域の人から、野菜、米、花等を届けてもらい助けてもらっている。時には、地域のボランティア活動で中庭を整備してもらっている。また、災害対策においても協力体制ができていて信頼関係が深まっている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったり・ゆっくり・安心と安らぎを」を太い柱として、利用者が自立を目指し、地域社会に密着して暮らせるように理念を作り上げ、それぞれの共有空間の目立つところに額に入れて掲示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勉強会や研修会で常に話し合い、地域の人を招き入れて多くの交流を図る等して理念の共有に努めている。職員は、生活リハビリティの中で利用者の自立を目指し、利用者と共に食事をする中で利用者の声を聞くようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧版で知る地域の清掃日には希望する利用者も参加して、缶ひろいや除草活動を行っている。また、夏祭りや文化祭へ参加する一方、ホーム内のイベントに地域の方を招待する等して交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を踏まえて各ユニットで勉強会をしており、各職員が自己評価をし、スタッフの意見交換を行って意識の向上を図っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催を予定していたが、計画通りには実施できず、12月と4月の2回の開催となっている。議事録はきちんと整理され記録してある。		運営推進会議のメンバーはきちんと構成されているため、2か月に1回の開催を実現できるよう働きかけを工夫して計画を立て、定期的な会議開催が今後のサービスの質の向上につながることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の生きがい課、地域包括支援センター、社会福祉協議会へは、管理者が小まめに連絡して連携をはかり地域へ密着したサービスができるように努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員2名が毎月の新聞発行を担当しているので、月に一度の請求書送付時にイベントの写真と共に個々の生活状況を一筆添えて知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理窓口の電話番号を家族に知らせている。また、意見箱も設置しているが殆んど入らない。不満や苦情の意見があれば職員会議で話し合い運営に反映していけるように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が異動する際は、早い段階で異動の辞令を出し、異動先での勤務を増やすことでスムーズに移行できるように努めている。また、合同体操やイベント、毎日の散歩で、利用者や職員は顔馴染みの関係を築いており、ダメージを防ぐ取り組みが行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修をデイサービスとグループホーム合同で実施している。法人外の研修に申し込む職員が多く、意欲的に資格を取りたい思いから、通信教育や研修会に自発的に取り組んでいる。また、研修内容のレポートを必ず提出し、誰でも閲覧できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者でのネットワークづくりができていないため、地域包括支援センターからも情報を得て、地域のネットワークをつくって行く方向で進むようにしたい意向である。		ネットワークをつくることによって横のつながりから交流や連携を深め、事業者同士で協働しつつ職員の育成や質の向上に取り組んでいくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	おためし入居などを行うことで徐々に馴染めるように支援している。また、生活に馴染んでもらうために、居室に利用者の大切な物品や家族の写真、タンス、仏壇などを持ち込んでもらい、安心して日々を送れる居室作りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	楽しいこと、悲しいことの時間の共有をしている。職員は人生の先輩である利用者から家事や掃除のことで意見を聞いたり、利用者が休憩中の職員に毛布をかけてくれたり、お互いに支え合う関係づくりをしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から利用者の生活歴を聞いておき、利用者のしたいことや思っていることを傾聴し受け止めることで、その人らしい生活を送れるよう支援している。現在、センター方式の導入を検討中である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、医師、看護師から情報を集め、カンファレンスをもとに担当スタッフと計画作成担当者が検討の上、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、利用者の身体的、精神的な状況に合わせて見直し及び変更を行っている。また、突発的な変化が生じた際は、家族に連絡して計画の調整をはかって対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族からの要望には臨機応変に対応し、家族の都合の悪い時は、職員が外出の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	年に2回の健康相談の受診の際には、情報提供書を用意し、入所以前からのかかりつけ医との連携をはかっているが、安定した状態であれば家族、利用者と当施設提携医への相談を行っている。なお、受診記録を残し職員が共有できるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに事例はないが、入所時に当施設における終末期に向けた方針の説明をしている。利用者や家族の意向を踏まえ、提携医と職員間で、対応できるケアについて話し合っており、本人にとって最良だと思われるケアを提供していく事を家族に話している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	暖かく優しい目線で利用者の尊厳を守ることを共有し、個人ファイルは鍵のかかるところに保管している。外出時はプライバシーに配慮し、入浴排泄介助についても利用者を傷つけないように心して対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、それに拘束されることなく個々の今したい事を尊重し、ホーム内の生活に乱れないように配慮しつつ支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜類は地域の人達からの頂き物を十分に活用させてもらえる。利用者も盛りつけや後片付けなど出来る事を職員と共にやっている。全員で大テーブルを囲み、利用者と職員と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴とし、日曜日においては、デイサービスにある檜風呂を利用することもある。季節を感じる菖蒲湯やゆず湯、バラの花を浮かしたり入浴剤を入れるなど、入浴を楽しめるよう多様に富んだ支援をしている。また、入浴支援のときは、プライバシーを傷つけないように配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域の住民や家族を招待してのイベントでは、利用者による唄や踊りの披露があるが、利用者の参加したい気持ちを大切に、利用者の活力や楽しみごとの場面を作り出せるようにケアしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏祭りや市民祭りなど地域の催し物への外出、買い物、外食、散歩を日常的に行うとともに、季節を楽しむ外出も多くなり入れている。バス旅行を実施してみたところ良かったので、温泉一泊旅行も考慮中である。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地条件上、家族の了解を得て午後4時から翌日の午前10時まで玄関だけは施錠しているが、日中は鍵をかけていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携で年に1回マニュアルに沿って避難訓練を行っている。災害対策を議題に運営推進会議で話し合い、地域との協力体制がとられており、地域の人々と利用者が顔馴染みになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	地域の人から野菜を豊富に頂けるので、野菜を使った献立が多いが、栄養のバランスは考えられている。一人ひとりに合った量、回数などを考慮して食べやすいように工夫している。水分の摂取については気を配り、小まめに補給するように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に2か所、利用者共同制作の大きな貼り絵が飾られている。共用の空間はキッチン、食堂、和室、職員の事務室が開放的、機能的に配置され、障子やスライド式屋根によって光の調整がされ明るく、ゆったりとくつろげる場となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口の表札が各ユニットで工夫され、職員の手により半立体の飾りで掲示されている。使い慣れた馴染みの物品を持ち込み、中には仏壇、神棚まで配し、各々が家族と相談して好みの居室の環境作りをしている。		